

# D V D トールケース用附属品に関する運用基準

2002年3月11日制定

社団法人 日本レコード協会  
情報・技術委員会

## 『DVD トールケース用附属品に関する運用基準』の発行に当たって

### 1. 運用基準制定に関する経緯

当協会技術委員会資材専門部会において、DVD トールケース（以下、トールケースと称する。）の自動機対応の促進を目的としたトールケースの附属品の規格化が要請された（2001年1月17日平成12年度第4回資材専門部会）。

これを受け、品質管理専門部会で、トールケースの附属品の規格化について検討した結果、トールケースは各社から多種多様なものが考案されているが、表カード等の附属品の寸法は類似しており、代表的なトールケースを2タイプに分類することにより、附属品の規格化が可能との結論に至った（2001年1月24日平成12年度第4回品質管理専門部会）。

このため、当協会品質管理専門部会に参加するDVD プレスメーカ4社（C, JVC, TO, SME）に対し、具体的に各社のトールケースの附属品（表カード及び折り込みカード）の仕様に関し、寸法及び紙質等の実態調査を開始した（2001年2月6日）。

しかし、寸法等の実態調査の結果、予想以上にトールケースの種類が多いこと、4社のトールケースの使用状況やトールケース対応の自動機導入に関する方針の違いが明らかになり、一時附属品の規格化は非常に難しい状況となった。

そのため、再度、4社に附属品の規格化に関する意見を確認し、検討会を開催した。その結果、トールケース対応の自動機導入で先行する2社に寸法等の調整を一任し、“表カード”、“ブックレット”、“折り込みカード”について規格化作業を進めることとした（2001年7月26日）。このような状況から、RIS（レコード協会規格）としての規格化は見送り、運用基準としてまとめることとした。

附属品寸法等の2社案が作成され、4社の承認が得られたことから、品質管理専門部会の承認を受けた（2001年10月26日平成13年度第3回品質管理専門部会）。

（社）日本映像ソフト協会（JVA）内で、ご検討いただいた結果、再検討の要請があり、JVAの代表及びDVD プレスメーカ3社（パイオニアビデオ、松下電器、メモリーテック）と当協会加盟プレスメーカ4社で打ち合わせを行い、附属品寸法等の最終調整を行った（2001年12月14日）。

この運用基準の審議を担当してきた技術委員会及び品質管理専門部会が 2001 年 11 月末日をもって、解散し、2002 年 1 月に新たに情報・技術委員会が発足した。

最終調整案は、旧技術委員会から RIS 関係業務を引き継いだ情報・技術委員会において正式に承認され、「DVD トールケース用附属品に関する運用基準」として制定・発行した(2002 年 3 月 11 日)。

## 2. この運用基準の目的及び注意事項等

この運用基準は、あくまでも、生産枚数の増加している DVD ディスクの製造における自動化・効率化を目的としたものであり、トールケースに用いる附属品を DVD プレス工場の自動機で効率的に使用できるように、その寸法及び紙質等を標準タイプの附属品として規定したものである。

このため、この運用基準の中で用いる A タイプ及び B タイプという呼称は、特定のトールケース自体を標準タイプとして想定したものではなく、そのトールケースで使用可能な附属品の寸法等を規定するために、便宜的にタイプ分けしたものである。

したがって、この運用基準は、標準タイプの附属品の使用を推奨するものであり、標準タイプ以外の附属品の使用及び標準タイプ以外の附属品を用いるトールケース等の使用を何ら制限するものではない。

この運用基準では、自動機の使用を前提としているために、DVD を 1 枚収納するトールケースに限定している。このため、DVD を 2 枚以上収納できるトールケースを使用する場合には、注意が必要である。

なお、使用するトールケースの附属品が、A タイプ、B タイプのどちらに該当するかなどの詳細は、製造委託先会社に直接確認されたい。

また、DVD 専用ジュエルケースを用いる場合には、当協会の発行する「RIS206 DVD 専用ジュエルケース附属品」を参照されたい。

2002 年 3 月 11 日  
社団法人 日本レコード協会  
情報・技術委員会

## DVD トールケース用附属品に関する運用基準

1. **目的** この運用基準は、DVD トールケースに用いる標準タイプの附属品を規定し、DVD トールケース仕様の DVD ディスク製造時において、附属品の挿入等自動機の効率的な運用を推進することを目的とする。
2. **適用範囲** この運用基準は、DVD トールケースに用いる標準タイプの附属品の形状寸法・紙質等について規定する。
3. **引用規格** この運用基準の引用規格を次に示す。引用規格はその最新版を適用する。  
RIS206 DVD 専用ジュエルケース附属品
4. **用語の定義** この運用基準で用いる主な用語の定義は、次のとおりとする。
  - 1) **DVD トールケース** 外側に透明フィルムが貼られている、縦長タイプのプラスチック製の DVD 用ケース。この運用基準では、DVD を 1 枚収納するものに限る。
  - 2) **表カード** DVD トールケースの外側の透明フィルム内に挿入するタイトルなどを印刷するカードをいう。化粧紙ともいう。
  - 3) **ブックレット** DVD トールケース内に挿入するブックタイプの印刷物。
  - 4) **折り込みカード** DVD トールケース内に挿入する折り込みタイプのカード。ブックレットに挟み込む場合もある。
5. **注意事項** この運用基準では、各社の附属品の形状寸法及び紙質等を調査して、標準タイプの附属品として規定している。  
しかし、各 DVD ディスク製造会社により、自動機の仕様が微妙に異なるため、実際に、附属品を作成する場合は、必ず、事前に製造委託先会社の附属品仕様書の詳細を確認すること。

6. 表カード

6.1 形状寸法 表カードの仕上がり形状は、図 1 のとおりとし、その寸法は表 1 のとおりとする。

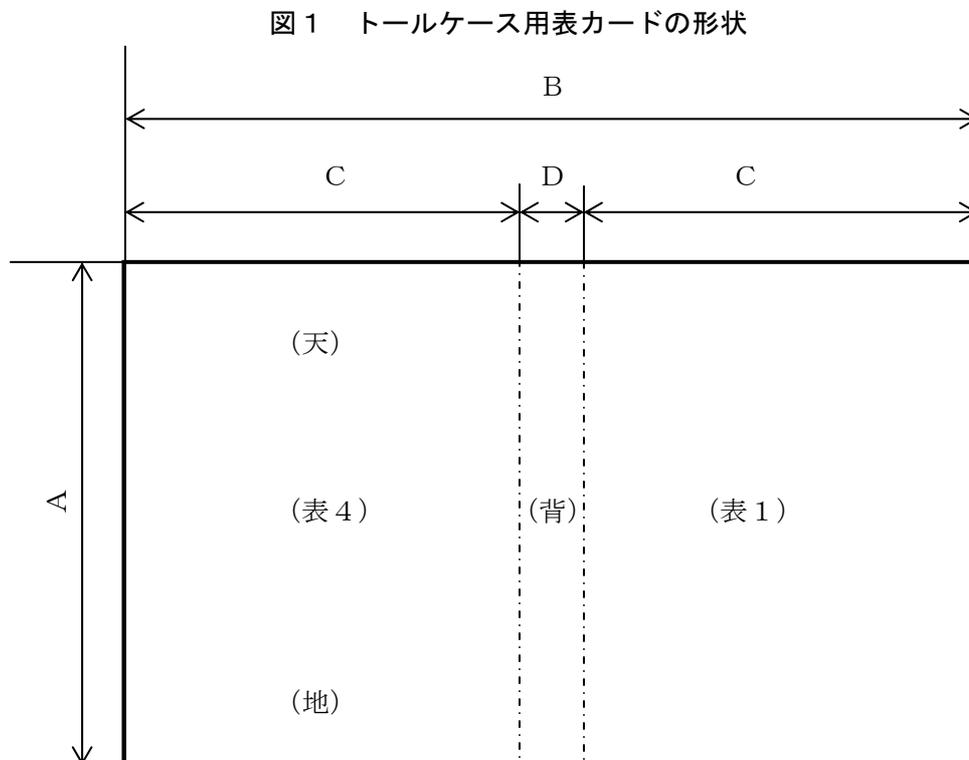


表 1 トールケース用表カードの寸法

単位：mm

記号	Aタイプ	Bタイプ
A	183.0±0.5	182.5±0.5
B	272.5±0.5	286.5±0.5
C	区分不可	区分不可
D	14.0±0.25	区分不可

6.2 用紙 表カードの用紙は、表 2 のとおりとする。

表 2 トールケース用表カードの用紙

記号	Aタイプ	Bタイプ
紙質	コート紙	コート紙
米坪量 g/m <sup>2</sup>	127.9～157.0	127.9～157.0

備考 ここでいう、米坪量 127.9 g/m<sup>2</sup>、157.0 g/m<sup>2</sup>は、キロ連量ではそれぞれ四六判 110kg、135kg に相当する。

6.3 紙目方向 紙目の方向は、仕上がり形状に対して横方法とする。

## 7. ブックレット

7.1 形状寸法 ブックレットの仕上がり形状は、図2のとおりとし、その寸法は表3のとおりとする。

図2 トールケース用ブックレットの形状

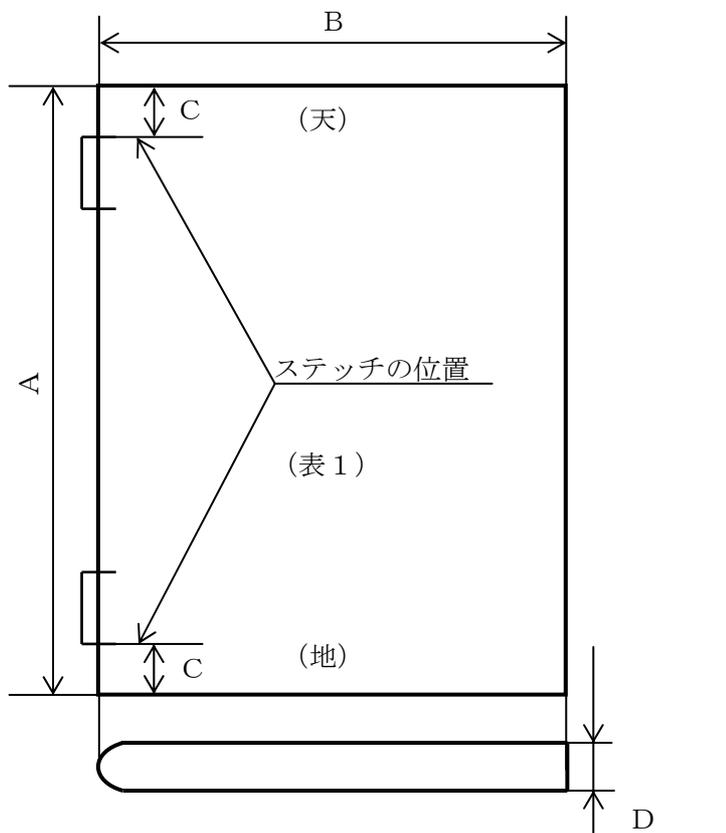


表3 トールケース用ブックレットの寸法

単位：mm

記号	Aタイプ	Bタイプ
A	110～180 (推奨 170～180)	110～180
B	100～120	100～120
C	25±2	30±2
D	2.5以下	2.5以下

7.2 用紙 ブックレットの用紙は、表4のとおりとする。

表4 トールケース用ブックレットの用紙

記号	Aタイプ	Bタイプ
紙質	上質紙又はコート紙	上質紙又はコート紙
米坪量 g/m <sup>2</sup>	104.7～157.0	104.7～157.0

備考 ここていう、米坪量 104.7 g/m<sup>2</sup>、157.0 g/m<sup>2</sup>は、キロ連量ではそれぞれ四六判 90kg、135kg に相当する。

## 8. 折り込みカード

8.1 形状寸法 折り込みカードの仕上がり形状は、図3のとおりとし、その寸法は表5のとおりとする。

図3 トールケース用折り込みカードの形状

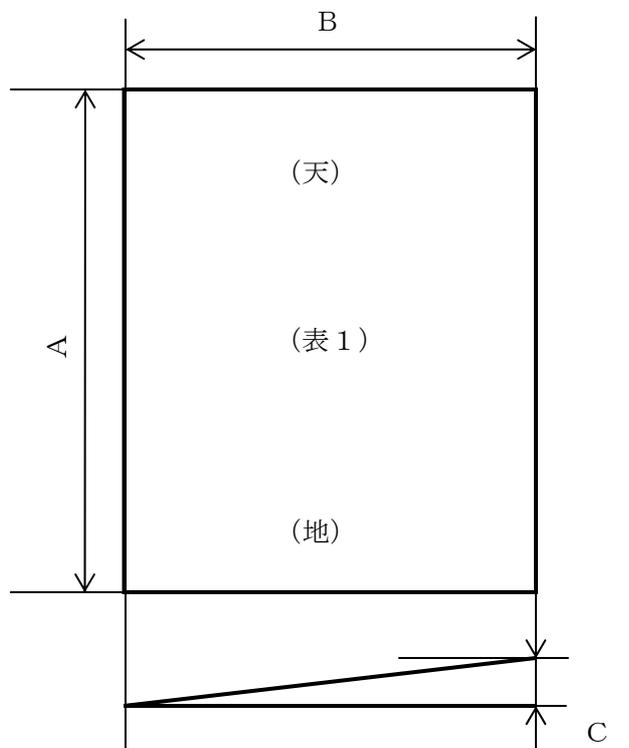


表5 トールケース用折り込みカードの寸法

単位：mm

記号	Aタイプ/Bタイプ共通
A	110～180
B	50～120
C	2.5以下

備考 C寸法は、ブックレットを含む総厚（最厚部）とする。

8.2 用紙 折り込みカードの用紙は、表6のとおりとする。

表6 トールケース用折り込みカードの用紙

記号	Aタイプ/Bタイプ共通
紙質	上質紙又はコート紙
米坪量 g/m <sup>2</sup>	104.7～157.0

備考 ここでいう、米坪量 104.7 g/m<sup>2</sup>、157.0 g/m<sup>2</sup>は、キロ連量ではそれぞれ四六判 90kg、135kg に相当する。

9. 原案作成委員会 この運用基準の原案作成は、旧技術委員会 品質管理専門部会が担当した。次にその委員構成を示す。

#### 品質管理専門部会 委員構成表

	氏 名	所 属
(幹 事)	七 沢 正 忠	東芝EMI株式会社制作宣伝管理部
(副幹事)	田 中 一 郎	株式会社ポニーキャニオン編成管理部
(委 員)	梅 沢 清	日本コロムビア株式会社事業本部生産本部品質管理部
	曾 田 喬	日本ビクター株式会社メディアカンパニー 林間事業センターCS部
	武 内 健 一	キングレコード株式会社業務部
	杉 本 敏 之	ユニバーサルミュージック株式会社購買部
	岸 本 清 志	日本クラウン株式会社営業本部営業管理部
	武 内 伸 雄	株式会社徳間ジャパンコミュニケーションズ
	岩ヶ谷 昌 弘	株式会社ソニー・ミュージックマニュファクチャリング 品質管理グループ
	森 岡 敏 一	株式会社ポニーキャニオンエンタプライズ足立生産本部
	浅 田 謙 三	株式会社 BMG ファンハウス管理本部業務部
	潮 平 彩 樹	パイオニア LDC 株式会社映像制作部
	高 橋 秀 一	エイベックス株式会社経営管理部
(事務局)	北 村 幸 市	社団法人日本レコード協会テクノロジーセンター
	赤 塚 祐一郎	社団法人日本レコード協会テクノロジーセンター

(2001年11月30日現在)

---

審議制定 : 社団法人 日本レコード協会情報・技術委員会 (委員長: 鳥塚 憲一, 2002.3.11)  
原案審議 : DVDツールケース打ち合わせ (進行役: 梅沢 清, 2001.12.14)  
原案作成 : 品質管理専門部会 (幹事: 七沢 正忠, 2001.10.26)  
発 行 : 社団法人 日本レコード協会  
東京都中央区銀座7-16-3 日鐵木挽ビル (〒104-0061)  
電話 (03) 3541-4411~4

---